

特集 ゆるぎない英語力を育成するために

入門期を指導する

酒井英樹 (信州大学)



入門期の考え方

入門期 (Get Ready ~ Lesson 3) のポイントは、小中の円滑な接続です。外国語活動が必修化され、5年生と6年生は週1回、英語に触れています。つまり、生徒は英語の音声や基本的な表現に慣れ親しんできていた経験を持っています。生徒の慣れ親しみを踏まえ、24NCで扱われている語彙や表現を見直しました。小学校で慣れ親しんできた語彙や表現を多く取り入れるようにし、スムーズな接続が可能となるように配慮しました。また、28NCの入門期は「聞くこと」から「書くこと」という指導の流れを大切にしています。本稿では、28NCを使った入門期の指導に焦点を当てます。

小学校英語から中学校英語へ

Get Ready 1「コミュニケーションを楽しもう」には、小学校で体験してきたことを踏まえて、中学校でさらに英語の世界を広げていってほしいという願いが込められています。この考え方は24NCから引き継がれているものです。

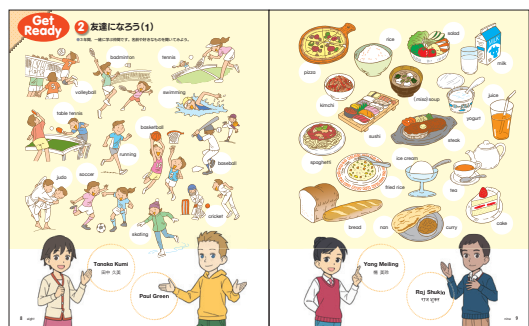
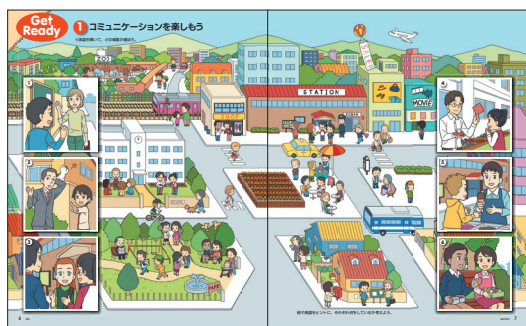
英語のやり取りを聞いて、どの場面のことが選択させるタスクがあります。このやり取りは、小学校

の外国語活動でよく扱われるものですから、生徒の活動状況を見ながら、生徒の慣れ親しみの様子把握することができます。

Get Ready 1の右下に「絵や英語をヒントに、それぞれ何をしているか考えよう」という指示があります。パノラマの絵を生徒に見せて、それぞれの人たちが何をしているのか、どんな話をしているのか、考えさせます。あいさつ、道案内、買物、食事などの場面や、生徒の身近な暮らしに関わる場面などが描かれていることに気づくでしょう。こういった場面でのコミュニケーションを英語で行うことのできる力を中学校3年間で育てていくことになります。Get Ready 1を活用して、生徒が中学校での英語学習を見通せるように指導してほしいと考えます。

生徒の知識や技能の見きわめ

中学校の入門期では、生徒の慣れ親しみの度合いや身につけている知識や技能を見きわめながら、適切な指導を行っていくことも重要です。Get Ready 2「友達になろう」では、登場人物の紹介とあわせて、スポーツ、食べ物、動物など、小学校で扱われているような身近な英語の単語が示されています。教師が発音した単語をタッチさせたり、キー

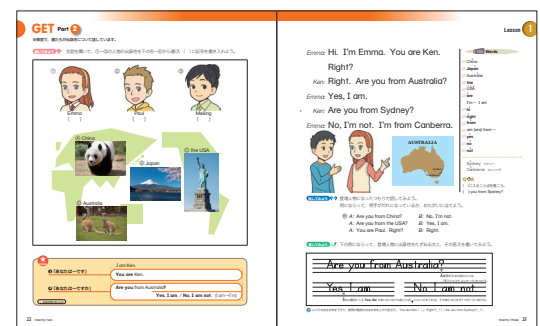


ワードゲームを行ったりしながら、生徒が英語の音声や表現にどの程度慣れているのかを診断することができます。

Get Ready 2は英単語の絵辞典としても活用できます。一般動詞 (Lesson 3) や複数形 (Lesson 4) を学ぶ際には、Get Ready 2にある絵を見ながら好きなものなどについて紹介させたり、数えさせたりできます。また、スペルが示されていますので、Get Ready 2を参考にしながら英文を書かせたりすることもできます。

「聞くこと」から「書くこと」の流れ

1年生のLesson 1~3の構成は、GETだけで成り立っています。各GETは、「聞く」活動で導入され、「書く」活動で終わるという指導の流れになっています。次の例を見てください。



①「聞いてみよう」の活動

聞いた英語の内容を示す写真・絵を選んだり、線で結んだりするタスクがあります。まとまりのある英語を聞いて大まかに英語の意味を理解するという段階です。それほど難しいタスクではありませんが、曖昧な理解から詳細な理解へと学習を進めるために重要なステップとなります。また、「聞いてみよう」の活動を進める際、タスクを行わせ、答え合わせをするだけでなく、英語が使われている状況 (どんな場面なのか、どんな人たちが話しているのか、どんなことを話しているのかなど) に注目させましょう。

② Point

文のしくみを理解する段階です。小学校では Are you ~? と Do you ~? という表現を用いながら活動を行っていますが、2つの表現の区別を理解しているわけではありません。中学校の入門期は、小

特集 ゆるぎない英語力を育成するために

学校で慣れ親しんできた英語表現を整理する時期でもあります。生徒は、Do you ~? という表現にも慣れていきますので、簡単に Are you ~? と Do you ~? との違いを指導してもよいでしょう。

文のしくみが整理できたら、もう一度「聞いてみよう」の音声聞かせ、Pointの文に注目させることができます。例えば、Are you ~? という英語が何回使われていたかを聞いたり、Are you ~? で聞かれている内容を確認したりしてもよいでしょう。

また、Pointの文のしくみを理解させるだけでなく、コミュニケーションのために活用できる力を育成することが重要です。整理したPointの文が①で確認した状況で活用できることを意識させます。

③本文

聞いた英語を文字で確認する段階です。音声を聞かせながら音声と文字とを対応させます。音身に慣れ親しんでいる状態であれば、生徒に文字を見せて自分の力で発音させてもよいでしょう。

その後で、Words欄で挙げられている語句の発音や意味を確認します。語句に☑がついているので、チェックするなど学習に活用してください。

④「話してみよう」の活動

Pointの文を使いながらやりとりをする段階です。小学校の外国語活動では、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が大切にされ、臆さず他人と関わろうとする姿を育成しています。決まったペアだけでなく、さまざまな人たちと関わることを促すことによって、中学校においてもその積極的な態度をさらに伸ばしていきたいものです。

⑤「書いてみよう」の活動

モデル文を見ながら、英文を書く練習を行います。このように、28NCの入門期のレッスンは、「聞くこと」から「書くこと」という流れの中で、「インプット→アウトプット」、「理解→表現」というステップを組みながら、音声と文字をつなげた活動が可能となるように構成されています。

また、Lesson 1~3の「書いてみよう」の活動はモデル文を見ながら英文を書く練習を行います。これらの段階を経て、Project 1「自己紹介しよう」で、自己表現のために英語を書くという活動につながります。